

校内研修会と ICT活用のまとめ

これからの学びと学校の未来

生成AIについて: 新たな学習基盤

2025. 8.25

北澤 武 先生 (青山学院大学教授)

次期学習指導要領に向けて

「探究的な学びの基盤となる情報活用能力」が鍵となります。
CoeFont、Gamma、Sora、ChatGPTなど、
多様なツールの紹介。

責任と検証

個人情報保護、クリティカルシンキング、
バイアスへの注意が不可欠です。
まずは教師自身が触れてみるのが第一歩です。



情報技術パラダイムの転換

学習者主体の時代へ
生徒が自ら問いを立て、学ぶスタイルへ転換
します。（生徒もNotebookLM等の活用）

ICT機器活用の効力感
挑戦心や自己有用感、幸福感に肯定的な影響
を与えます。

生成AIの利用ルール
「どこまで使っていい？」
→「著作物と同様に、使用許可（連絡）をとることが基本」
という考え方が重要です。



研究授業【音楽】: 主体的・対話的学び

2025. 9.17

「旅立ちの時」音程・歌詞・リズムの理解

主体的態度

パートごとの意見交換を通じ、改善点に気づき、より良い歌声を目指す意欲を高めました。

思考の可視化

「気づきメモ」の活用により、生徒の思考プロセスが見える化されました。

振り返り

ICTツールで自己の学びを再確認し、定着を図りました。



指導講評:ICTは「手段」

島山 繁善 統括指導主事

よい授業とは？

「わかった！」 「できた！」

生徒が達成感を得て、もっと学習したくなる授業です。

個々のペース

多様な教材を選択し、繰り返し修正・改善が可能であること。

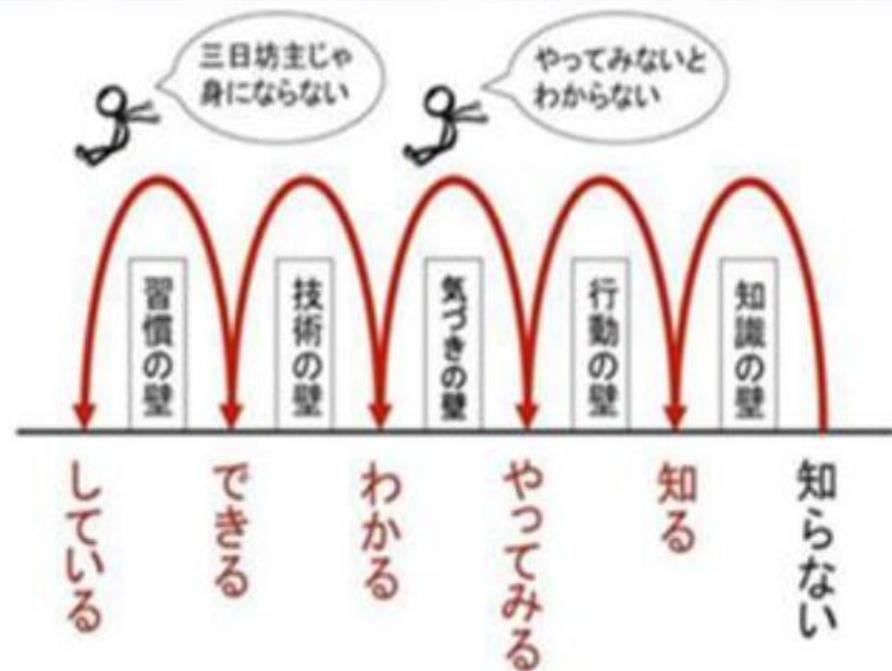
即時共有

複数の生徒の考えを瞬時に共有できること。

目的の明確化

ICT活用自体が目的ではありません。目標実現のための手段として検討することが大切です。

「知る」と「わかる」、「できる」と「している」の違い



楽天大学学長が教える「ビジネス頭」の働き方
読書・旅行・資格・IT・ワーケーション



研究授業【社会】: 主体的な課題解決

2025. 10.15

日本の諸地域「九州地方」

ジグソー学習

自ら選択した課題に対し、資料を活用して主体的に取り組みました。

共有と深化

1人1台端末で答えを共有し、より深い学びへつなげました。

指導のバランス

生徒主体の協働的な学びと、教師による情報の集約(一斉指導)のバランスの工夫しました。

主体的な学びの条件

「一人一台端末を生かし、主体的に学習に取り組む態度の育成」

毛利 靖 先生（茨城大学教授）



答えが一つではない課題

教師が想定しない答えを生徒が見つけれられるような、多様性を認める課題設定。

ワクワクする課題

生徒自身が「追求したい」と思える、知的好奇心を刺激する環境づくり。

※ 「みどりの学園」の実践例

ICT活用で探究学習を効率化し、誰一人取り残さない教育へ。



研究授業【国語】:魅力的な提案

2025. 10.29

推敲と協力

班員と協力して原稿を推敲し、声の出し方を工夫しました。

ICTの活用

資料作成や発表原稿の作成に対話を取り入れ、わかりやすく伝える工夫を実践。

客観的な振り返り

録音・録画を活用することで、自分たちの発表を客観的に捉えることができました。

一人一台端末活用の新旧イメージ

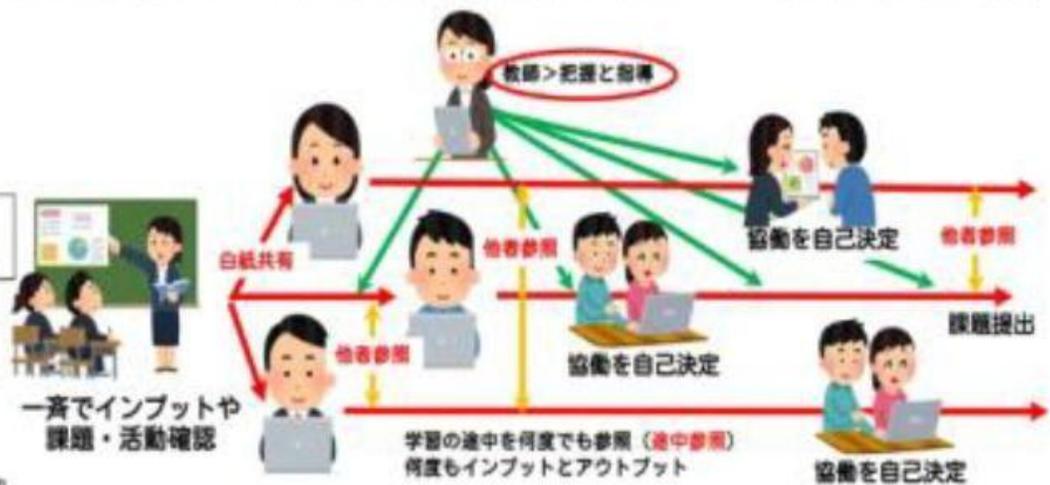
単線型 (従来型)

- 教師の指示による
ステップバイステップ
- 単線型
- 協働すらも一斉



複線型 (クラウド型)

- 一人一人が主眼
自己判断で進行
- 複線型
- 必要な時に、
必要な相手と協働
- 教師は把握と指導



深い学びと複線型授業

島山 繁善 統括指導主事

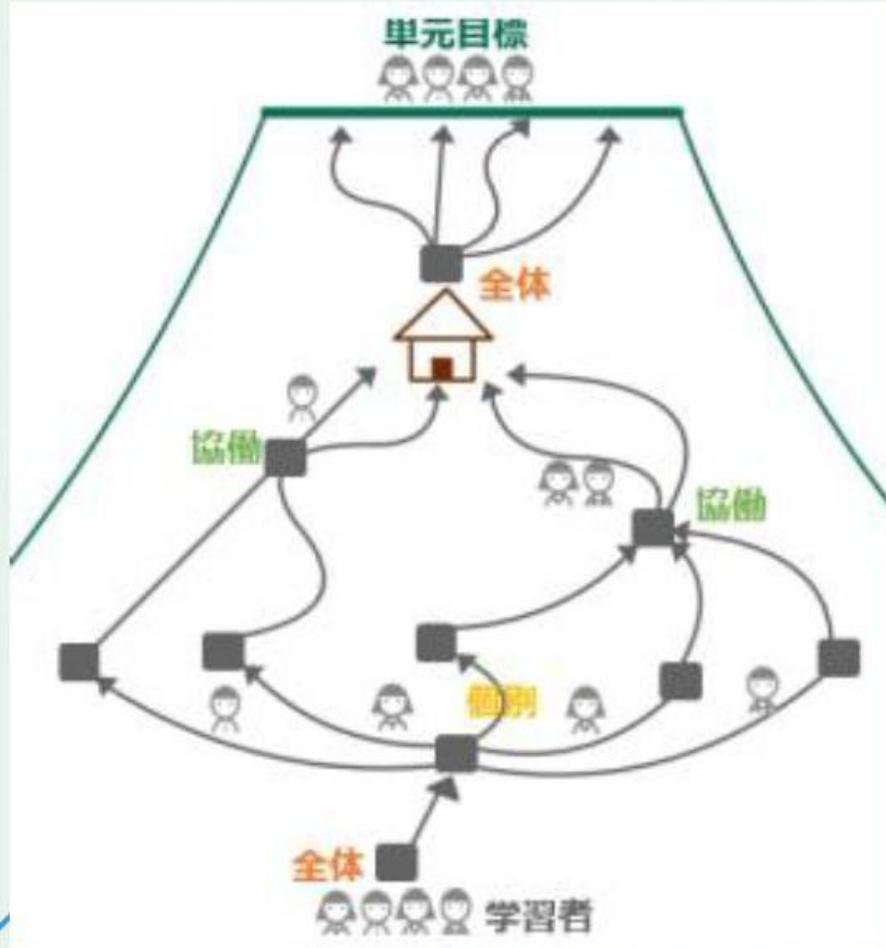
学びを調整し、深める

他者参照と自己調整

学び合いを通して新たな視点に気づき、学習の見通しを自分で調整していくプロセスが「深い学び」につながります。

複線型授業の実践

一斉授業だけでなく、多様な学習ルートを用意することで、個々のニーズに応じた学びを実現します。



(1)主体的な学びを支えるICT活用

「自分とつなげる」ICT

目標との結びつき

本時の目標を自分のこと（自分ごと）として捉えさせるために活用します。

意欲の喚起

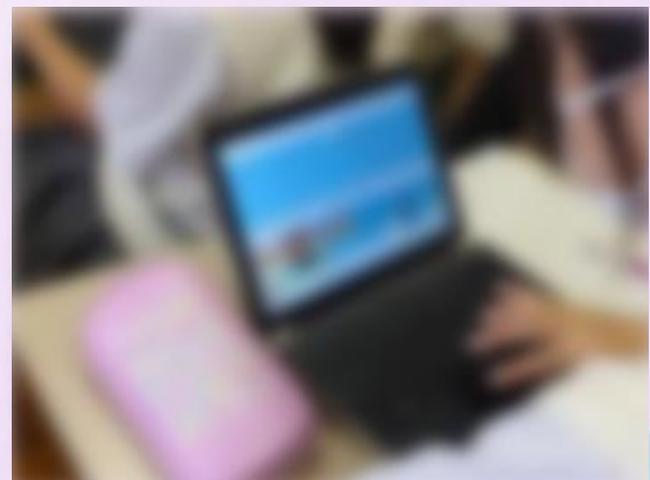
英語や音楽の授業での導入活用など、生徒の「やりたい」を引き出します。

自己調整

自分のペースで学習を進め、振り返ることで、主体性を育みます。



SKYMENU「気づきメモ」



Kahoot !

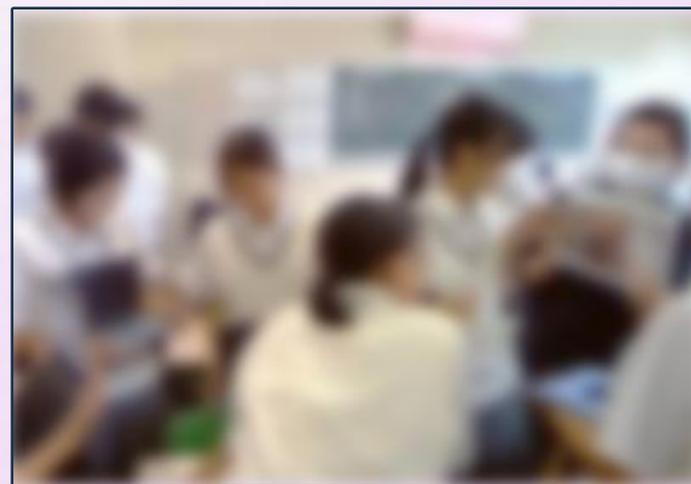
(3) 協働的な学びを支えるICT活用

「個」から「クラウド」へ クラウドベースの共同編集

「個への活用」にとどまらず、共同編集ツールや情報共有機能を活用することで、生徒同士が協働する場面が飛躍的に増加しました。他者の意見を即座に参照し、自分の考えを深めるインタラクティブ(「双方向」「対話型」「相互作用」)な学びが進みつつあります。



SKYMENU「発表ノート」



Google Workspace (GWS) のスライド機能

(3) 働き方改革を支えるICT活用

教職員の業務効率化

Google Workspace (GWS) 校務のデジタル化により、情報の共有と管理がスムーズになりました。

質と効率の両立

チャット機能による迅速な連絡や意見交換、その意見交換をAI要約したものを活用した研修・協議により、本来の教育活動に充てる時間を創出できてきました。

1	時程	通常50×6 2年職場体験学習 地域ふれあい給食12:15-
2	教務連絡	C4thメンテナンスのため18:00~21:00止まり
3	進路連絡	3年の成績一覧表本調査にあたり、3年生の授業担当の先生の入力をお願いします。12/5(金)まで。 入力用ファイルはオレンジ環境→★学習・進路→01_3年生算出→第3学年にあります。(下は見本です) https://drive.google.com/file/d/1CrMWF3VbNwhh_LVBAFg5... ※在籍は「124人」、うち斜線は「4人」になるはずですが、各評定の「120人」で割って」算出してください。
4	生活連絡	
5	保健連絡	インフルエンザ等の罹患後の登校について。 原則、各家庭でダウンロード、印刷をしていただきたいです。保健HP(配布文書) 登校届(インフル・感染性胃腸炎に使用)
6	給食連絡	登校届(インフル・...)
7	事務連絡	
8	1学年連絡	
9	2学年連絡	
10	3学年連絡	
11	その他連絡	
12	別紙系連絡	

GWS「カレンダー」(+スプレッドシート・PDF)



チャットとAI要約による研修・協議

